

日本災害看護学会先遣隊 台風第19号活動報告（長野県）

2019年10月16日(水)

活動メンバー:小原真理子・長谷川美智子

1. 活動の概要

活動日時:令和元年10月16日(水)6:50~19:00

活動場所:長野県飯野市

支援目的:先遣隊活動

活動日の状況:台風第19号の被災後、5日目

天気は晴れ、最高気温18度、最低気温10度

2. 活動の実際

時間	活動の内容
7:00	<ul style="list-style-type: none"> 飯山市ボランティアセンターへ出発。 上越高速道路まで6kmを1時間かけて移動。昨日は10分程度で通過した道路が渋滞し1時間かかる。 アップラインが通行止めのため主要道路3本が2本となり、早朝より渋滞がみられる。長野市内の移動は到着時間の予測がつかない状況である。上越高速道路使用:須坂長野東~豊田飯山 36 km
8:30 9:00	<ul style="list-style-type: none"> 飯山市ボランティアセンターへ到着、手洗い、うがい、長靴のクレゾール消毒については、学会より物資支援した。 駐車場が満車であり、スタッフ駐車場へ案内される。 ボランティア活動開始前説明内容について社協説明内容と重複する部分の確認及び打ち合わせ 木島平村社会福祉協議会 鈴木氏・西川氏 説明用紙の配布は、ボランティア参加者が被災した自宅への置き忘れ、活動の邪魔なり扱いが煩雑になることが予測されるためボランティア参加者に配布しない方向となる。 手洗い・うがい・コップ・アルコール清拭の物品設置について社協職員の方と打ち合わせ 薬剤に「ボラセン」と明記し配置 うがい用紙コップは埃が入らないように、コップの口側を下にビニールを敷き設置 薬剤や物品がなくなった場合は今後、社協にて準備してもらうように依頼
9:00 11:00	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動開始前の説明、用紙に沿って実施(添付資料1) 1回10分程度 200名程度参加のため5回にわけ実施 ニーズ内容・対象者は調査中にて不明 ボランティアの目的は、被災した方の再建につながる事。そして、くれぐれも無理をしないボランティア活動を行う、被災した方に迷惑をかけることがないように配慮が必要ことを理解できる説明会を行う(写真1)。 長靴の洗浄方法について、ゆっくり説明会を行いボランティア参加者が理解できるように配慮する ボランティア活動の送りだし状況確認。 受付を社協のかたが昨日同様に行っている。参加者の増加、支援ニーズの依頼対応に困惑している表情あり。また、看護師の継続配置を要望された。学会の派遣目的、期間を説明し、社協から長野県看護協会に看護師スタッフの依頼や潜在ナースの掘り起こしの提案を行った。可能であれば、明日の夕方への訪問が可能なお伝えする。
11:00	<ul style="list-style-type: none"> 長靴のクレゾール石鹼液による消毒方法について、ちらしを長靴洗浄付近に掲示。
12:30	<ul style="list-style-type: none"> 消毒終了区域と泥汚染区域の経路が交わることのない経路を社協の方と話し合う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・長靴消毒用のコンテナ 2 個に消毒液準備 ・長靴の水洗浄→長靴の底の消毒の順路で実施できるようなコンテナ設置 ・ボランティア活動終了者に、長靴の水洗浄方法、長靴の底の消毒方法を行うように説明(写真2)。長靴の水の洗浄を促すが、長靴の底の土が、底の溝に入り十分な洗浄を行わない状態でクレゾール石鹼液に長靴の底をつけてしまう。何度か伝えるが長靴に底の土の洗浄が困難である。効果的な長靴の底の洗浄方法・消毒方法について感染認定看護師に電話で確認を行う。 ☞洗浄を行えないのであれば消毒の効果がない。しっかり水洗浄することを優先して行えるような環境整備が必要であるとのこと。 ☆クレゾール石鹼液の消毒について飯山市ボランティアセンターに相談。長靴の底を洗えるような環境を整えていきたいとのこと。クレゾール石鹼液の使用を中止するように調整を行う。 ・手洗い・うがい・アルコール消毒実施への声かけを行う。方法については、ポスターを作成し、掲示した。
<p>12:30 13:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飯山市役所周辺でボランティア活動を行っている現場に行き体調を確認、汚泥による家具の汚染について確認した。 現場は汚泥3cm程度あり、車の運転ではハンドルがとられる状況。 ボランティアの方は、家財の洗浄に洗車ブラシや歯ブラシが欲しいと要望あり。ボランティアセンターに報告するように伝える。 ・ボランティア活動周辺の住宅で家屋の洗浄を行っている住民への体調の変化の確認 ○飯山市役所・保健医療センター 保健センターの事務の方に活動目的を説明し災害対応について協力することを伝えると、保健医療センター施内の清掃が終わらないと対応できないと返答あり。2週間程度後を目途に考えているとのこと。 ○被災され家族で片づけを行っている方への声かけ(写真3) A氏 80 歳代の次男さんが自宅前におられ家の洗浄を行っておられる。ご家族の体調や内服に問題がないか問いかけると、家の片づけを中止し、A氏に確認に行かれる。1階が浸水し、現在2階で妻と二人で居住し、次男は別宅に生活されている。A氏が台風発生により室内が散乱し片づけを行っていたところ、籠に手を挟み、右手第2指に挫滅創3cmあり。家族が病院受診を進めるが被害の片づけを気にして受診に行こうとしない。傷の状態を見てほしいと要望あり自宅に上がるように促される。傷の深さは皮下組織までの損傷で、壊死組織が付着している状態。傷周囲の発赤、腫脹あり、疼痛は軽度。浸出液の悪臭、混濁はない。石鹼洗浄後、ガーゼで被覆する。可能であれば受診するように説明する。内服薬を問うと高血圧・痛風・緑内障・白内障の内服の服用を行っている。診察が可能な病院の情報がなく、かかりつけ医を受診するとのことであった。被災前は自宅で従業員とともに仕事を行っていた。被害を受けた後はもっぱら自宅内にいることが多く、最近ではふくらはぎのこむらえしや左足が震えることがあり、眠れないことがあるということであった。また、食事はあるもので済ましているということであった。 今回A氏の次男に困りごとについて内服薬が不足していないか確認の声かけを行うことで、外傷による皮膚組織の感染徴候を発見し、病院受診を進めることができた。生活の困りごとについて具体的な声かけを行い必要な支援提供が遅れないように関わっていく必要があると考えられる。
<p>13:20 14:30</p>	<p>道の駅で昼食</p>
<p>15:40</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長野市保健所医療クラスターミーティング参加 ・外部支援者の一覧に小原理事の携帯番号・支援団体名を明記する ・ミーティング内容 ○医療面について 避難所に認知症のある方とCPAP利用中の方、自宅で孤立している方について日中の支援活動内容

の情報交換を行っていた。認知症のある方は福祉避難所の受け入れを断われ、現在も避難所にて生活をされている。CPAP利用の方、自宅で孤立されている方は介護施設の入所が決まった。

○今後の保健所の活動について

明日午後から厚労省から派遣される長野県、富山県・愛知県・豊田市の保健師派遣活動が開始。

3. 課題・所感

ボランティアセンターでボランティア活動前のオリエンテーションを行った。西日本豪雨災害被災地のボランティアセンターでの支援経験にボランティア支援の経験があったため活用し実践することができた。また、長靴の底の洗浄について、クレゾール石鹼液の消毒を準備した。しかし、現場でできる内容を確認すると、長靴の洗浄ができない現状が伺えた。そこで、ボランティアセンター職員と実際に汚泥を取り除く水洗浄を行えるように方法を検討することが必要であった。状況に柔軟に対応する姿勢をもち活動する必要性を学ぶことができた。

飯山市役所は役所の機能を再開するまで時間を要するなかで、在宅に暮らす高齢者支援にまで目を向ける体制が出来ていない状況が伺えた。今後の支援サポート体制について行政に確認する必要があると考えられた。



写真1. 小原理事がボランティア活動前オリエンテーションを
たくさんのボランティア参加者の前で実施



写真2. 長靴の裏のクレゾール石鹼液による消毒を行っている
ボランティア参加者のみなさん